

今日のトピック インドの株式市場は持ち直し（2019年3月前半） 地政学リスクが高まる中でも底堅い展開

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	3月5日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.59	2.0	3.3	2.1	▲2.7
ルピー/米ドル (ルピー)	70.49	▲0.8	▲1.5	▲1.8	8.3
金利 (%)					
政策金利	6.25	0.00	▲0.25	▲0.25	0.25
10年国債利回り	7.38	▲0.0	▲0.0	▲0.7	▲0.4
株式指数					
SENSEX (ポイント)	36,442	1.3	▲0.5	▲4.1	8.0

(注) データは2019年3月5日基準。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【インドの株式、通貨】 (ルピー/米ドル)



(注1) データは2018年3月5日～2019年3月5日。
(注2) ルピー/米ドルは逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント1 株式市場は持ち直し 地政学リスクが高まる中でも底堅い展開

- インド株式市場は、カシミール地方を巡るパキスタンとインドの対立が激化する中でも、底堅い展開となっています。代表的な株式指数のSENSEXは、2月中旬まで下落したものの、その後は米国による対中追加関税の延期などから、素材や自動車株を中心に買い戻しが入りました。パキスタン政府が3月1日、拘束したインド軍パイロットを解放したことも緊張緩和への期待につながりました。インドのモディ首相は対決姿勢を続けていますが、総選挙前に与党に対する支持率を上げるのが狙いとの見方から、現状不安視されていません。

ポイント2 10-12月期の成長率は鈍化 政策効果で先行きの景気は堅調

- インドの10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.6%と、7-9月期の同+7.0%から鈍化しました。成長率は鈍化したものの、個人消費が同+8.4%、設備投資が同+10.6%と、内需は好調です。財政金融政策が景気支援的になっていることから、先行きの景気は堅調に推移する見通しです。

今後の展開 地政学リスクが燻るものの、株式市場は堅調地合いへ

- インドとパキスタンは、通貨危機につながりかねない武力衝突の拡大を望んでいないとみられるため、金融市場は戦争状態に突入する可能性が低いと捉えていると思われます。先行きの景気が堅調に推移するとみられることや、米利上げ観測の後退によるインド金融市場への資金流入期待から、株式市場は堅調地合いが続くことが期待されます。ただし、パキスタン政府がインド軍パイロットを解放した後も、カシミール地方で両国の武力衝突は続いており、一般市民にも死傷者が出ていることから、過度に楽観はできません。両国間の対話姿勢の変化など、事態の推移を注意深く見守る必要があります。

ここも
チェック! 2019年2月20日 インドの株式市場はやや調整（2019年2月後半）
2019年2月13日 アジア・トーク「総選挙を控えるインド経済について」

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。